

# 季報

## 二松學舎大学附属図書館 Quarterly Report

LEARNING COMMONS

- P2 新たな世界が広がる時 塩沢一平
- P3 ハードローとソフトロー 高岸直樹
- P4 レポート豆情報 出典の表記篇
- P5 『新編国歌大観』はデータベースで見られます  
新着図書 おすすめの1冊  
ラーニング・commonsより
- P6～7 こんなこと、聞かれました
- P7 本学所蔵資料の紹介
- P8 本学教職員著書紹介

# No.96

2016(平成28)年9月

---

---

# 新たな世界が広がるとき

文学部 国文学科 教授 塩沢 一平

---

---

今までの考え方が一気に変わった（又は、広がった）と感じることが、皆さんも様々な場であると思う。新たな世界が見えた、世界が広がったというその爽快感は、たまらない。それは、映画を見ていたときに起こったり、誰かと話をしているときに起こったり、新聞のコラムを読んでいるときに起こったりする。しかし、なんといっても読書の中で起こる発想の転換・変容は強烈である。それは、書籍が持っている圧倒的な文字と情報量、そして累積された文字が作り出す論理の説得力から来るものだろう。

その体験の中で、私が専門としている万葉集での印象的な経験をお話したいと思う。

やまのべあかひと  
山部赤人という歌人がいる。百人一首にも富士山を詠んだ有名な歌「田子の浦にうち出でて見ればま白妙の富士の高嶺に雪はふりつつ」（4番）が収められている歌人である（万葉集では、「田子の浦うち出でて見ればま白にそ富士の高嶺に雪はふりける」巻3 318番歌）。その赤人に、吉野にある離宮を詠んだ讃歌がある。この讃歌は、前時代の柿本人麻呂が同じ吉野を詠んだ讃歌2首と、歌の語句が73%以上が類同する（長歌19句の内の14句が類同する）との指摘がある。非常に高いパーセントの類同で、ほとんど盗作・剽窃（ひょうせつ今で言うならパクリ）の歌と指摘されてもよい感じのものとなっている。

しかし、これはオリジナルを称揚する現代的な考えとも言えよう。素晴らしい先例たる人麻呂の表現をいかに

継承するかに赤人が苦心していたのだという論は万葉研究では従来からあった。これに万葉研究者の橋本達雄氏は、新たな分析3点を加え、発想の転換を促した。それは、①赤人が人麻呂から継承した点、②赤人が人麻呂から排除した点、そして③赤人が新たに創造した点の3点で、この3点から比較しようという考えである。

私たちは類同することばかりに注目しがちである。しかし②のように逆に排除した点に注目しようというのである。この発想の転換。なるほどと思考に広さが加わった気持ちになった。しかも③の新たに創造した点にも細かく配慮して評価することは、当たり前のようにだが、二者を比較するときに重要な思考であろう。

実は橋本氏の論には、さらなる発想の転換があった。赤人の歌にだけで考えるならば、14 / 19句が人麻呂と類同する。しかし比較されている人麻呂の歌は、そもそも2首なのである。さらに人麻呂の歌の句数に注目する必要もある。2首の歌を合計すると句数は、実は56句である。つまり人麻呂の歌と類同しているのは、14 / 56句という考え方もできるのだとというのである。この考えを採用するならば、類同は、25%にすぎないこととなる。75%は類同していないのである。赤人の歌の印象ががらつと変わってしまうのではないかと。

この発想の転換を楽しみたい方は、橋本達雄著『万葉集の作品と歌風』（笠間書院）を開いて見てほしい。九段・柏両図書館に開架されている。

---

---

# ハードローとソフトロー

国際政治経済学部 国際政治経済学科 准教授 高岸 直樹

---

---

「万博」をご存じでしょうか。ここでの万博とは、国際博覧会条約に基づく博覧会のことです。我が国では昭和45年に大阪府吹田市で日本万国博覧会が開催され、その後、沖縄海洋博、つくば科学博など、近時では平成17年の愛知万博が開催されました。昨年は、イタリア・ミラノで「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに開催され、私も視察する機会がありました。なかでも、開催国のイタリア館と、日本館は大人気で、「列に並ばない」と言われるイタリア人が整然と並んで順番を待っていました。会期末近くには、日本館は炎天下に9時間以上の待ち時間となったと聞いています。もし、列が守られずに会場が混乱すると観覧できなくなるでしょうから、観客は強制されることなく列に並ぶのです。

さて、私の研究対象である「株式会社」は、多数の投資家が出資して、規模の大きいビジネスを展開するビジネス界での主役です。この株式会社では会社法を始めとして、さまざまな規律が適用されますが、ここでは会社のガバナンスに関してのハードローとソフトローについて考えてみたいと思います。

会社のガバナンスとは、一言で表すと、適法性、効率性を確保して迅速な意思決定を行うための体制といえます。ビジネスではさまざまなリスクがありますが、これらのリスクをすべて取り除くことはできません。リスクのないビジネスなどないのです。そこで、適切にリスクを評価し、意思決定するプロセスが必要になるのです。

では、どのような体制が求められるのでしょうか。まず、会社法は、取締役会を設置する大会社には、取締役会にて内部統制システムを構築するよう求めています(会社法362条4項6号)。ここでは主に、リスク管理を含むガバナンスの強化、企業グループでの業務の適正を確保するための体制や監査役の監査体制の整備が求められています。他方、必要な整備と適切な運用がなされていれば、経営者は義務を果たしたもとして免責されます。

つぎに金融商品取引法は、21世紀初頭のアメリカでの会計不正事件を受けて、上場会社等を対象に、投資家を保護するために、会社の財政状態や経営成績に関する

情報の信頼性を確保するための体制の有効性評価を求めています(金融商品取引法24条の4の4①)。これらは法律でその実施が求められ、執行が強制されるハードローです。

これに対し、東京証券取引所が2015年に適用開始したコーポレートガバナンス・コードは法的な拘束力を有さないソフトローです。このコードでは、会社の意思決定につき、透明化、迅速化を図り、多様な視点を持つことでよりの確に行い、会社の中長期的な持続的成長を促しています。ただ、このコードは原則であり、会社はコードをすべて適用することは強制されず、コンプライ(遵守)できない部分はエクスプレイン(説明)すればよいとされます。つまり、それぞれの会社には自ら判断し行動することが求められています。

ソフトローといっても遵守しなければなんらかの制裁を受けます。コードで、コンプライもエクスプレインもしなければ東京証券取引所の上場規程による制裁があり得ます。しかし、コードでの、コンプライか、エクスプレインかを自主的に決める点については、我が国ではまだ馴染みがなく困惑する人も多いようです。これは、規範は遵守するものであって、規範の目的と必要性に照らして行動を決定するという経験が少なかったことも一因だと思います。今後は、行動内容を自主的に決定するために、ソフトローを含めた規範の目的と必要性の理解がこれまで以上に求められることになるでしょう。



(賑わうミラノ万博日本館)

# レポート豆情報 出典の表記篇

新入生の皆さんは7月に初めて大学のレポートを書いた方も多くいらっしゃるでしょう。レポートは感想文とは違って、自分の思ったことや感じたことをただ書くというわけにはいかず、自分がなぜそう考えたのかを示す根拠（論拠）が必要になってきます。その論拠は自分の意見ではなく、他人の意見です。他人が発表した本や雑誌から引用し、自分の意見の論拠とします。その論拠を引用した出典の示し方の一例を紹介합니다。皆さんの今後のレポート作成の一助になれば幸いです。

出典をどこに示すのか、3種類の方法が考えられます。(1)本文中に差し込んで示す、(2)注を付けて文末またはページ末に示す、(3)文献一覧を設け、そこに示す。示す内容は

**A、本の場合…引用した本の著者、『書名』(シリーズ名)、出版社、出版年、引用頁**

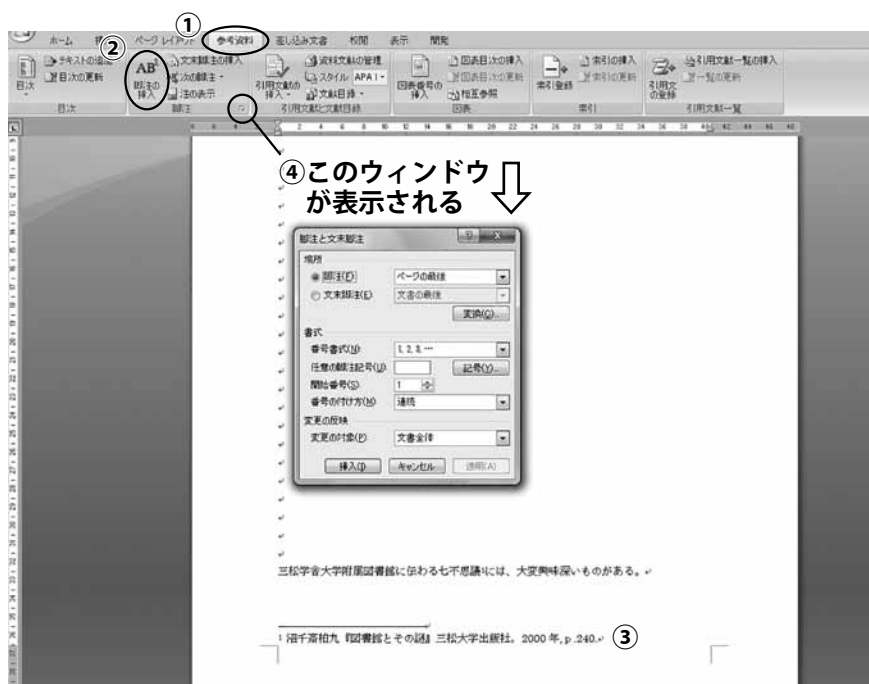
**B、雑誌論文の場合…論文の著者、「論文名」、『雑誌名』 巻号数、[発行所名]、刊行年 [月]、引用頁 ([ ] 内は場合によって付す)**

**C、Web サイトの場合…著者名、「ページタイトル」『Web サイト名』、〈URL〉、(閲覧年月日)**

などが考えられます。出典を示す順番は一通りではないようですので、レポートを出す先生の指示に従ってください。

さて、出典をどこに示すかの(2)と(3)については、Wordに便利な機能があります。今回は(2)の方を見てみたいと思います。

(2)の場合、「脚注」という機能があります。利用するには、まず画面の上に並んでいるタブの中の「参考資料」というタブをクリックします(図①)。注には、ページの下に付ける「脚注」とレポートの最後につける「文末脚注」があり(図②)、どちらかを選べます。次に本文の注を入れたい場所にカーソルを合わせ、「脚注の挿入」か「文末脚注の挿入」を選んでクリックします。そうすると、カーソルのある場所に小さな数字が振られ、注を書くスペースが頁末か文末に現れます(図③)。そこに出典の情報を



を記します。この機能の便利な点は、注を間に増やしても、自動的に注の番号が振られることです。脚注の形式などを変更したい場合は、「脚注」と書いてある場所の小さな「\」をクリックすると「脚注と文末脚注」というウィンドウが開きます。そこで適宜変更が可能です(図④)。

「脚注」と「文末脚注」のどちらを使っても良いと思いますが、双方を一つのレポートで使うことはやめましょう。もちろん、指示があれば、指示のあった方を使って下さいね。

B2 電動書架の請求番号「816.5」のところには、多くの論文やレポートの書き方に関する本があります。いろいろと参考になると思いますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

[参考文献]・山口裕之著『コピペと言われないレポートの書き方教室:3つのステップ:コピペから正しい引用へ』 新曜社 2013年

・桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング:スキルを学ぶ21のワーク』 実教出版 2013年



# こんなこと、聞かれました

お久しぶりです。以前川柳の回に登場した図書館員の<sup>なべまつ</sup>双松です。前は夢の話でしたが、今回は現実の世界の話です。昨年カウンターにて、皆さまから聞かれたことを少し紹介し、図書館に詳しくなってもらいたと思います。

## Q：この本どこにありますか？

双松：この質問、ほんとうに本当にホントウニ HONTOUNI 多いんです。具体的に〇〇新書はどこですかとか、080 - K はどこですかというものも含めての話ですが、よろしい、この際徹底的に説明しましょう。まず、OPAC の検索結果画面を見てみましょう。

●所蔵：										⑤	
巻号	予約人数	刷年	所在 ①	請求記号	資料ID	貸出区分	状況	備考			
1 <input type="checkbox"/>	<input type="button" value="予約"/>	0	B2 一般図書(電動書架)(九段) ②                      ③                      ④	331.19 K	370049296	貸出可					

何を見ればいいのかというと、まず①「所在」ですね。上の所在は「B2 一般図書 (電動書架) (九段)」となっています。文末の「(九段)」で九段図書館にあることがわかります。次に②「B2」に目をつけます。九段の場合「B1」か「B2」なのでどちらの階にあるかがわかります。次に③「一般図書 (電動書架)」ですが、これは「普通の図書で電動書架にある」という意味になります。その他には B2 の場合「一般図書 (木製書架)」や「雑誌 (電動書架)」などがあります。B1 ですと「参考図書」や「大型本コーナー」などの表示があります。これらで探している本がどの辺りにあるかの見当がつかます。

そのあとで請求記号を見て、探している図書を見つけ出します。各書架にどの番号の請求記号がその書架にあるかを掲示してありますので、それを手がかりに探してください。ただし、請求記号は 1 冊につき 1 つというわけではなく、同じ請求記号の本が何冊もあることもあります。

さて、所在の最後が④「(柏)」となっているもの、また所在に「柏保存書庫」とあるものは九段図書館にはないものです。柏図書館からの取寄せとなります。詳しくは「季報」92 号をご覧ください。

また、点在していてややこしいのが「B1 文庫・新書架 (九段)」だと思います。こちらは書架ごとに「岩波文庫」や「岩波新書」などの目印があります。そちらを見て探してください。「東洋文庫」や「エンタメ系小説」、「AV コーナー」は壁に掲示がありますので、そちらを目安に探してくださいね。ふうー、こんなところでしょうか。

## Q：本が「貸出可」となっていますが、貸出はされていますか？

双松：上の図の右から 2 番目に⑤「状況」という項目がありますね。貸出されている場合は、こちらに「貸出中」の表示が出ます (右図)。貸出中の横の数字が返却期限日です。

状況	備考
貸出中(2016/07/27)	

## Q：柏の本を返却日に九段に返却したら延滞になりますか？

双松：大丈夫、延滞にはなりません。逆に九段の本を柏で返却しても大丈夫です。

## Q：本を借りたいのですが、返却日が教育実習期間中のため本を返却できません。どうしたら良いですか？

双松：教育実習の場合には、実習後最初に学校に来る日まで延長できますので、カウンターへ申請してください。教育実習で使う本もあるかと思いますが、どんどん借りていって下さい。

**Q：本の延長は現物がないとダメですよね？**

双松：カウンターで延長を申し込む場合は、現物がないとダメですが、マイライブラリからであれば現物がなくても延長可能です。ただし、予約が入っている場合や、再度の延長はできませんのでご了承ください。長期貸出で借りた本も延長はできません。

**Q：パソコンで『日本国語大辞典』を見たい。**

双松：なかなか通な質問ですね。図書館トップページ  
→「オンラインデータベース／電子ジャーナル」→  
「JapanKnowledge Lib（ジャパンナレッジリブ）」で  
閲覧可能です。

辞書・事典・知識検索		
タイトル	解説	同時接続数
JapanKnowledge Lib (ジャパンナレッジリブ)	『日本国語大辞典』『日本大百科全書』など、30種以上の辞書・事典類を中心に、随時の記事やコラム、学術サイトURL集なども含む様々な情報源を集積し、それらを一括検索することができる知識検索支援サイトです。2015年4月より新たに辞書類版(正・統・統々)が利用できます。終了する時は、必ず「ログアウト」ボタンを押してください。	4
賞の事典	日本国内の3,200の賞の内容と受賞記録を調べられます。文学・音楽・芸能など各分野の賞と国の記録・表彰を対象に、賞名・種類・主催者・選考方法などが掲載される「賞情報」と、各回ごとの受賞者・受賞内容を調べられる「受賞者情報」で構成されています。終了する時は、必ず「LOGOUT」ボタンを押してください。	3

▲TOPへ

**Q：ラーニング・コモンズに図書館の本を持って行って良いですか？**

双松：ラーニング・コモンズの1階までなら可能です。

## 本学所蔵資料の紹介

**書画幅 備中儒者・文人寄合書（1864～68年頃）**

仲田某の求めに応じて、儒者・文人が書画を寄せ書きした一幅。備中松山藩の山田方谷・三島中洲・進鴻溪、福山藩の門田朴斎・江木鱈水、井原・興讓館主の阪谷朗廬、庭瀬の三好雲仙など、備中・備後の人物が多い。土佐浪士・西春松なども交り、幕末西国儒者のネットワークを感じさせる作品である。（文学部中国文学科 教授 町泉寿郎）

[人物略述]

- ・山田方谷（1805-1877）松山藩士、儒学者。藩政改革を断行し、10万両の負債を償却し、かつ10万両の余財をなした。門人は1000人を超えるといわれる。
- ・三島中洲（1831-1919）本学創立者。漢学者。大審院判事・宮中顧問官等歴任。大正天皇の侍講を務めた。文は明治三大家と称せられるほどであった。
- ・進鴻溪（1821-1884）漢学者。山田方谷に師事した。明治維新後は教育に専心し、多くの人物を育てた。学問は朱子学・陽明学に奉じ、詩文に優れていた。
- ・門田朴斎（1797-1873）儒学者。菅茶山に師事し、養子となるが、茶山の死後門田氏に復し、頼山陽に学んだ。福山藩に仕え学政（教育行政）を掌った。
- ・江木鱈水（1810-1881）儒学者。福山藩に仕え、藩主阿部正弘が老中になると、顧問として多くの建策をした。開港論をとり、洋学を勧めるなど先見の明があった。
- ・阪谷朗廬（1822-1881）漢学者、教育者。幕末の多くの攘夷鎖国論者と異なり、外国の翻訳書を好み、晩年英書を学ぼうとしたほど進歩的開国論者であった。新文明を有力に指導した「明六社」にも参加している。
- ・三好雲仙（1812-1895）幕末～明治時代の画人。東海道を絵行脚して、その名が知られた。作品に、総社市極楽寺の山水図屏風などがある。
- ・西春松 勤王論者、儒学者。



# 本学教職員著書紹介

## 『恋する人文学 知をひらく 22 の扉』

二松學舎大学文学部国文学科 編  
(翰林書房、2016年3月30日発行)  
A5版・327ページ・1,800円＋税  
ISBN：978-4-87737-393-1



『恋する人文学 知をひらく 22 の扉』は、二松學舎大学文学部国文学科の教員たちが編んだ書です。国文学科では、これまで『京都奈良 文学散歩』・『神奈川 文学散歩』・『東京 文学散歩』(いずれも新典社)など、地域別の文学散歩本を出してきました。これらは一般の人に文学に親しんでもらえるきっかけになれば、と願って作ったものですが、今回は新たに人文科学の入門書をまとめました。

国文学科は、全国の大学の中でも有数の規模を誇ります。各時代に複数の教員を擁する国文学専攻を始めとして、映像・演劇・メディア専攻、日本語学専攻、日本文化専攻、比較文学・文化専攻の五つの専攻を設け、実技系の科目も含めた多彩なカリキュラムを展開しています。狭義の文学研究に収まらない広がりを持つ国文学科の特長を広く知ってもらいたい、そんな思いが制作の出発点にありました。

対象としたのは恋愛です。他者に感性的に惹かれ、そこからさまざまな関係性が生まれることは、いつの時代も変わりありません。しかし、その形は、場所・文化・階級・メディアなどによって大きく異なっています。私的なことでありながら、本人たちの意思を越えて推移していく現象であるという、不思議な面を恋愛は持っています。本書では専門領域ごとに恋愛の謎を読み解くことに挑みました。

まずは本書を手にとって、目次を眺めていただければと思います。並んだ魅力的なタイトルから、気になった扉(章)をまず拾い読みしてください。平易な記述を心がけましたので、楽に読み進めてもらえるでしょう。けれども、内容の水準は少しも落としていません。どの扉も研究の最前線の内容を扱っており、また研究方法が自ずと理解できるような工夫もしています。恋愛を対象とした人文学の研究書であり、人文学の魅力に気づいてもらう手引書でもある『恋する人文学』は、二つの狙いを持った欲ばりな本です。本書に恋する読者が一人でも多く生まれることを強く願っています。  
(文学部教授 国文学科主任 山口直孝)

### 編集後記

「季報」96号をお届けします。

原稿を執筆いただいた塩沢先生・高岸先生、資料を紹介下さった町先生、著書紹介をして下さった山口先生に感謝申し上げます。

さて、今号では少し「イメチェン」を企ててみましたが、いかがだったでしょうか。ご意見等お待ちしております。  
(S. A)

二松学舎大学附属図書館

季報

第96号

発行日 平成28(2016)年9月1日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16

電話：03-3263-6364

柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井 2590

電話：04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話：03-5227-8333